

けんたは、駅のホームにあるすにすわっていた。けんたは小学校に行くとは中だった。けんたが学校に行くともうすでにみんながきていた。「けんた今日くるのおそいぞ。」と友達のけいすけがいった。そういう会話をしていたら「キーンコーンカーンコン」とチャイムがなった。「もう朝の会だ。」とけいすけがいった。一時間目は、算数だった。

算数がおわると生活だ。生活は、学校たんけんだった。学校たんけんは、学校の全体を見るじゅぎょうだ。けいすけは、けんたに「いっしょにいこうぜ。」と言った。けんたは、「うん。」と答えた。まずけいすけとけんたがむかつたばしょは、SLひろばだった。SLひろばは、古びた汽車が二台おいてあるところだ。けんたは、SLひろばに行つてすこしおもいだした。夜になるとこの古びた汽車が二台ともうごいてあたりをうごき回ることもあった。それをけいすけに伝えたらけいすけは、「このまま学校に夜までいてそれがほんとうなのかたしかめようよ。」と言った。

夜になるとけいすけは、「何時くらいにこの二台の汽車がうごき回るの。」とけんたにきいたら、けんたは、それは、ぼくにもわからないと言った。ながいことまっていたら一台の汽車がうごきだしてきた。するとすぐに二台目の汽車もうごきだした。けんたは思いきって一台の汽車に「のせてくれませんか。」と言った。すると一台の汽車が「いいよ。」と言った。だからけいすけとけんたは一台の汽車にのつた。するとその二人がのっている汽車が走りまわった。けんたとけいすけは、目が回った。二人は、今のついていた汽車をおりて二台目の汽車に「のつてもいいですか。」ときいたら「いいよ。」と言ってくれた。けんたとけいすけは、二台目の汽車にのるとまた一台目とおなじように走りまわった。そして二人は、楽しくなつてしまつて一台目の汽車と二台目の汽車を早くのりかえたいからすばやくとびうつたりした。

そうやってけいすけとけんたが汽車であそんでいたら、けんたは学校の教室で目をさました。じつは、これまでの話は夢だった。そして家にかえると今日学校で寝てしまつたとお母さんに言うとお母さんにおこられた。